

取扱説明書

U-DPCAD

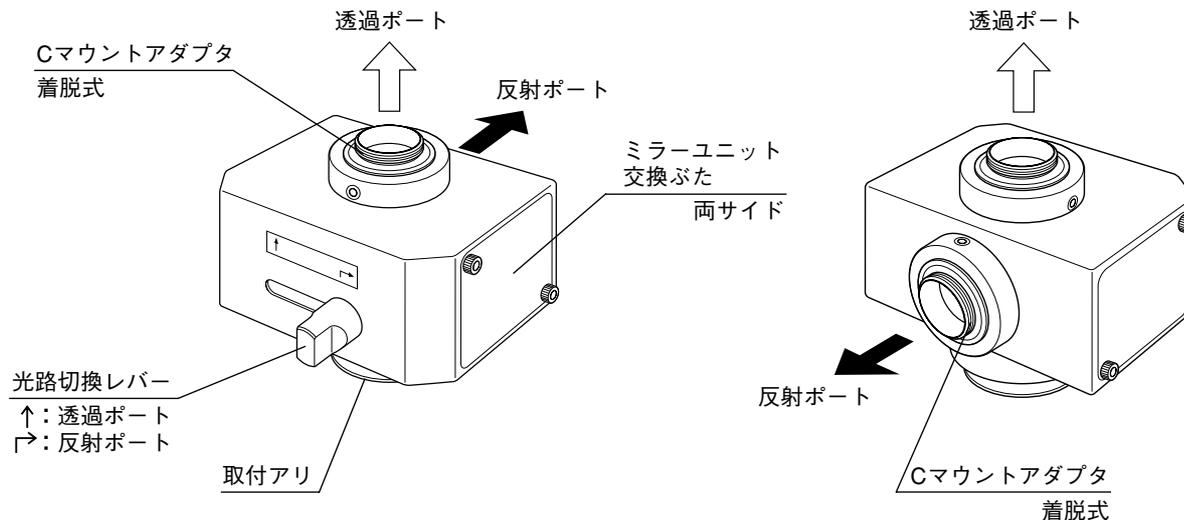
ダブルポートアダプタ

お願い

このたびは、オリンパスダブルポートアダプタをご採用いただき、ありがとうございました。
本装置の性能を十分に発揮させるためおよび安全確保のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
装置使用时には、常にお手元に置いていただき、お読みになったあとも大切に保管してください。

UIS光学系のBX/BX2/IX2シリーズ(IXシリーズは使用不可)の三眼鏡筒およびIX2サイドポート部に、このアダプタを取付けることで、2台のテレビカメラを取付けることができます。なお、このアダプタの倍率は1×です。

1 各部の名称と機能

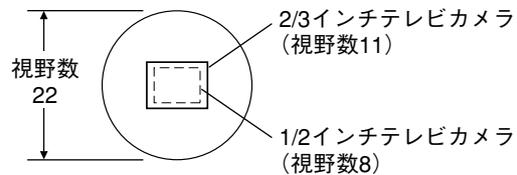


2 ご使用にあたって

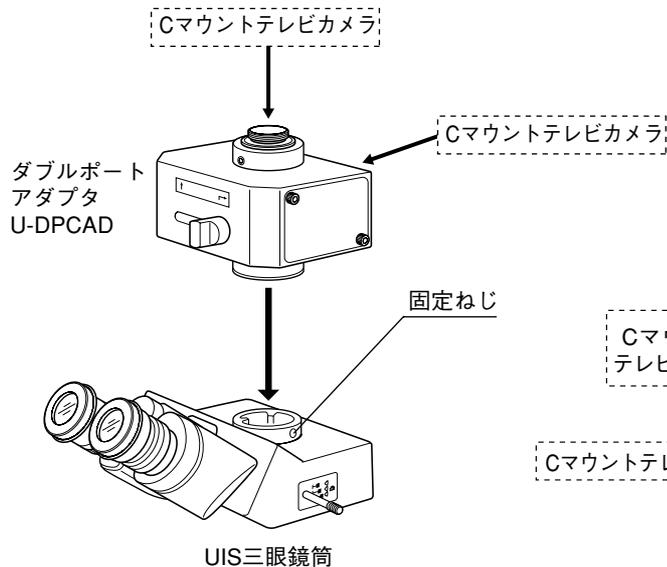
- 1) テレビカメラが横向きにセットされる場合は、テレビカメラの質量は1kg以下で、テレビカメラが正立の場合も1kg以下としてください。
- 2) 反射ポート像は、構造上鏡像(上下反転)となります。
- 3) IX2のサイドポートを使用したときの反射ポートに取付け可能なテレビカメラのサイズは、縦・横共70mm以内です。
(推奨テレビカメラ：浜松ホトニクス(C2400-77A, C2400-79)、SONY(CS-220)など)
- 4) 蛍光ミラーユニットをセットした場合は、ダイクロイックミラーによる二重像状のゴーストが発生する場合があります。輝度の高い明視野観察ではゴーストが目立つので使用しないでください。
蛍光観察やDIC観察では、実用上の問題はありません。
- 5) 本アダプタは、IEC国際規格のレーザ安全規格には対応していません。

3 組立て方

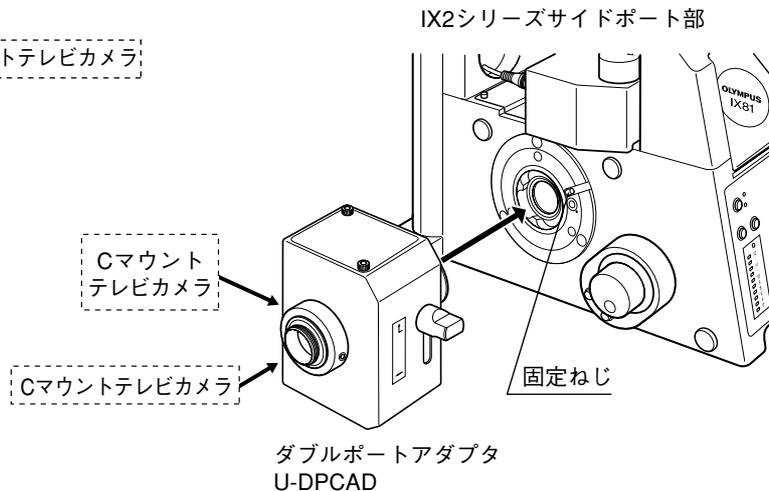
(注) 適合Cマウントテレビカメラの撮像視野範囲は右図のようになります。



三眼鏡筒



IX2サイドポート部



U-DPCADの取付け

(前頁)

- 1) 三眼鏡筒またはIX2サイドポート部の固定ねじを鏡体付属の六角ドライバでゆるめます。
- 2) U-DPCADの取付アリを挿入し、固定ねじを仮締めします。
U-DPCADを回転させて、傾きを補正してから固定ねじを確実に締付けます。

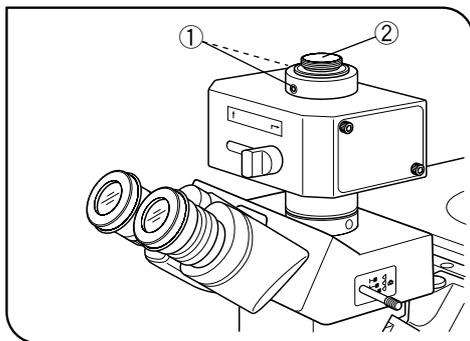


図 1

Cマウントアダプタの取付け

(図 1)

- 1) Cマウントアダプタ固定ねじ①(2ヶ)を六角ドライバでゆるめて、Cマウントアダプタ②を取外します。
◎透過用Cマウントアダプタには、下側に識別用の溝があります。
- 2) 使用するテレビカメラに、Cマウントアダプタを確実にねじ込みます。
- 3) テレビカメラの取付いたCマウントアダプタを元の位置に戻し、固定ねじを仮締めします。
同焦調整後に、確実に締付けます。
◎反射ポート側も同様に取付けます。

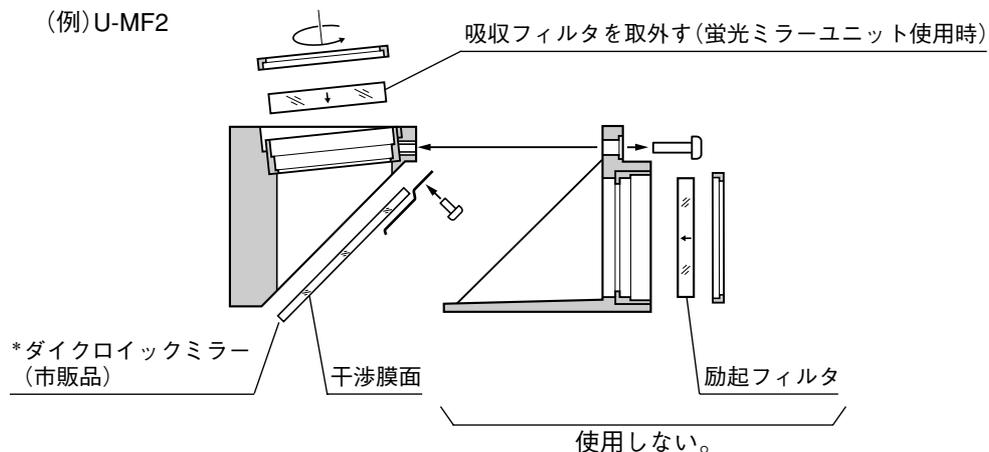
UISミラーユニットの取付け

◎内蔵の全反射ミラーユニットをダイクロイックミラーのみのミラーユニットに交換することで、波長分離した光束を透過・反射ポートへ導くことができます。

適合UISミラーユニット

- ・ BX/BX2シリーズのUIS蛍光ミラーユニット(励起フィルタ枠部・吸収フィルタを取外す。)
- ・ UISミラーユニット枠U-MF/U-MF2(市販品ダイクロイックミラーのみを取付け、励起フィルタ枠部は取付けない。)

(例)U-MF2



*市販品ダイクロイックミラーサイズは、 $26^{-0.1} \times 38^{-0.1}$ mm・厚さ 1 ± 0.05 mmです。
 蛍光ミラーユニット使用時は、固定されているものを使用する。

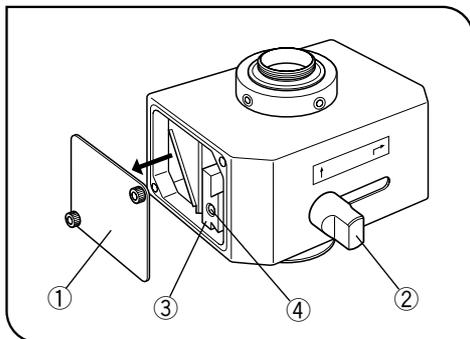


図 2

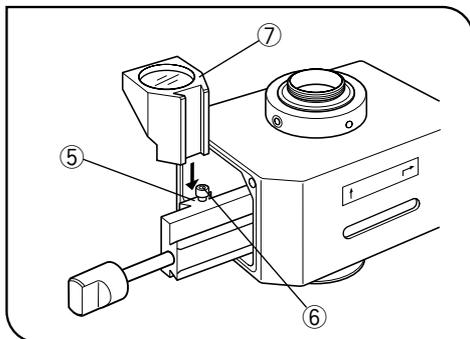


図 3

UISミラーユニットの取付け方

(図2,3)

- 1) ミラーユニットを取付ける側のミラーユニット交換ぶた①の固定ねじを鏡体付属の六角ドライバで外します。
 - 2) 光路切換レバー②を移動させて、取付アリ③が見えるようにします。
 - 3) 光路切換レバー②を反時計方向に回して外し、取付アリのねじ穴④にねじ込み、取付ア리를引出してミラーユニット取付アリ⑤が見えるようにします。
 - 4) ミラーユニット固定ねじ⑥を六角ドライバで少しゆるめ、ミラーユニット⑦のアリを取付アリ⑤に突当てまで挿入し、固定ねじ⑥を確実に締付けます。
 - 5) 取付アリ③を元の位置へ戻し、光路切換レバー②を取外します。
 - 6) 交換ぶた①と光路切換レバー②を元のように取付けます。
- ◎反対側に取付ける場合も、同様方法となります。

4 使い方

顕微鏡の調整

- 1) 顕微鏡の光源を点灯し、各部の調整を行い、観察可能状態にします。
- 2) UIS三眼鏡筒の光路切換つまみを引出し、写真光路に設定します。サイドポート側を使用している場合は、光路をサイドポートに設定します。

同焦調整

◎ 顕微鏡の観察像とモニタとのピントが同時に合うように、なるべく高倍対物レンズを使用して調整します。

- 1) 視度調整された接眼レンズを覗いて、標本に正確にピントを合わせます。
- 2) 六角ドライバで透過ポートのCマウントアダプタの固定ねじ①を軽くゆるめます。

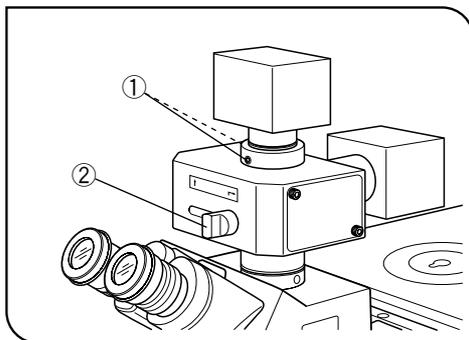


図 4

- 3) テレピカメラ、モニタの電源を入れます。
 - 4) 光路切換レバー②をスライドさせて、透過ポート光路にします。
 - 5) これで、モニタに観察像が見えますのでテレピカメラを少しずつ持ち上げピントの合う位置で固定ねじ①の1ヶのみで仮締めします。
 - 6) 微調整し、確実にピントが合ったことを確認してから、固定ねじ①を2ヶ共確実に締付けます。
- ◎ 反射ポート側も同様に調整します。

MEMO

この製品は 2022 年 4 月 1 日より **株式会社エビデント** が製造をおこないます。
この製品についてご不明な点は、下記のお客様相談センターまたはウェブサイトを通してお問い合わせいただくか、購入された販売店にお問い合わせください。

株式会社エビデント

 EVIDENT Customer Information Center
お客様相談センター

 **0120-58-0414** 受付時間 平日 9:00～17:00
※携帯・PHSからもご利用になれます。

E-mail: ot-cic-microscope@olympus.com

(ライフサイエンスソリューション)

お問い合わせ

<https://www.olympus-lifescience.com/support/service/>



(産業ソリューション)

お問い合わせ

<https://www.olympus-ims.com/service-and-support/service-centers/>



(ライフサイエンスソリューション)

当社ウェブサイト

<https://www.olympus-lifescience.com>



(産業ソリューション)

当社ウェブサイト

<https://www.olympus-ims.com>

